

柏崎 歩きマップ

まちなか

～えきから・まちから～

「砂丘の上にできた
北国街道の宿場町」
- まちの記憶 びっくりおもしろ発見 -

- **コース 1**
砂丘のまちの原点 今も残る高低差をたのしむ
- **コース 2**
柏崎のはじまり 島町界隈と近世のまちをめぐる
- **コース 3**
「ハママチ」発見 海辺の暮らしをみつける
- **コース 4**
石油産業を支えた柏崎 近代産業の歩みをみつける



**11 かしわざき市民活動センター
まちから (喬柏園)** (B-4)
かしわざき市民活動センター(かしわざき市民活動センター)
昭和13年(1938年)建築、同14年(1939年)に柏崎公会堂として開館。時代の変遷とともに市議会議場など多目的に使用され、平成27年(2015年)、かしわざき市民活動センターとして再整備された。

12 八坂神社 (A-4)
当初、和那美水門祇園社と称し、垂仁天皇の時代に創設。明治5年(1872年)八坂神社と改称。明治25年(1892年)、篠田宗吉により社殿が改築された。現在の「ごん柏崎まつり」は、ここ八坂神社が発祥である。

13 柏の大樹跡(レンガ坂) (A-5)
昔の鶴川河口の船着場から向こう岸にレンガ坂、その頂上に大きな柏の木があった。この木は遠く沖を漕ぎ行く漁師の目印となり、いつからかこの地を「柏の崎(みさき)」と呼ぶようになった。それが転じて、現在の地名「柏崎(かしわざき)」となったという説がある。

14 柏崎陣屋跡 (B-6)
寛保2年(1742年)白河藩(福島県白河市)のために新設。文政6年(1823年)から桑名藩(三重県桑名市)の飛び領となる。天保8年(1837年)には「生田方の嶺」と呼ばれる討ち入りもあった。明治維新後、柏崎の県庁となったが明治6年(1873年)新潟県に編入され、今は記念の碑が残る。



1 厄除不動尊(不動院内) (B-2)
その昔、弘法大師が御丈七寸の不動明王を彫り、磯辺の石窟に安置した。後に、石窟が海中に沈むという夢のお告げがあり、この不動院を建て像を移し難を免れた。かつては、「波切不動尊」の名で呼ばれ信仰を集めていた。



2 四つ家町 (C-2)
かつて、荒涼とした砂地に納屋だけがボツボツとあった。ここに4軒の家が居を構え、人々は「四つ家浜」と言った。やがて「四つ家町」に発展したという。このあたりを歩くと、家々の間にかつてのハマミチの姿がうかがわれる。



3 スリバチの底 (C-2)
この十字路は四方が上り坂で、なるほど、すり鉢の底のようた。ここに「御金蔵の泥吐き場」と呼ばれた水溜めがあった。今は埋め立てられ、立派な宅地になっている。ここは柏崎の地形の中でも非常に面白い場所である。



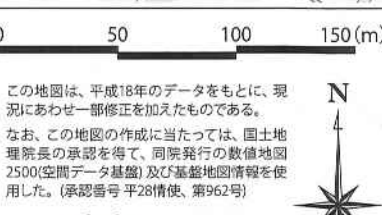
4 明治天皇 行在所跡 (D-2)
明治11年(1878年)の明治天皇北陸巡幸の際に新築された。9月に往路、復路の2回宿泊。同35年(1902年)には皇太子時代の大正天皇も休憩された。昭和48年(1973年)、柏崎小学校改築のため解体、撤去され、今は建物跡を示す石碑がある。



5 柏崎神社 ライオン像 (D-2)
社務所前に石彫りのライオン像がある。「昭和参年森田信雄奉納 石工相澤勝次郎、小川由廣、相澤利八」の銘が刻まれている。小川由廣作のライオン像は、松波諏訪神社などにも置かれている。



6 妙行寺 (C-2)
もとは真言宗。文永11(1274年)、佐渡に流されていた日蓮が赦免され、本州へ渡る際、嵐で番神に着岸した折に改宗して日蓮宗となる。番神は別院にあたる。戊辰戦争時には官軍の宿となり、その名残のほかに多くの史跡が残る。



9 立地蔵 (B-3)
江戸時代、立地蔵・ねまり地蔵はともに北国街道の真中に鎮座し、足元は飛砂に埋もれていた。その様子から当時、背の低い現・立地蔵は「ねまり(根うまり)地蔵」、背の高い現・ねまり地蔵は「立地蔵」と呼ばれていた。「ねまる」は座るの意だが、後の発掘で両石仏の足元を確認したところ、呼称が逆であることが判明した。そこで明治期、日光・月光菩薩を備えた薬師三尊立像のほうを立地蔵に、延命地蔵坐像のほうをねまり地蔵に改めた。なお、明治11年(1878年)の明治天皇北陸巡幸により遷座し、現在に至る。



10 ねまり地蔵 (B-4)
江戸時代、立地蔵・ねまり地蔵はともに北国街道の真中に鎮座し、足元は飛砂に埋もれていた。その様子から当時、背の低い現・立地蔵は「ねまり(根うまり)地蔵」、背の高い現・ねまり地蔵は「立地蔵」と呼ばれていた。「ねまる」は座るの意だが、後の発掘で両石仏の足元を確認したところ、呼称が逆であることが判明した。そこで明治期、日光・月光菩薩を備えた薬師三尊立像のほうを立地蔵に、延命地蔵坐像のほうをねまり地蔵に改めた。なお、明治11年(1878年)の明治天皇北陸巡幸により遷座し、現在に至る。



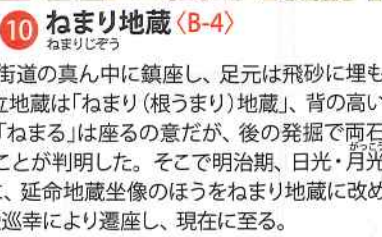
7 柏崎四十八題 石碑群 (C-3)
江戸時代に流行した俳諧の中でも、正徳5年(1715年)刊行の「俳書 小太郎」は、柏崎と周辺の名所・風物四十八題を唄って挿絵を添え、人気となった。今、この四十八題は、石碑として、石井神社に置かれている。



8 石井神社 (C-3)
海の神「住吉三神」をお祀りしていることから住吉神社とも呼ばれる。海運業と漁業で栄えたこの地で信仰を集めた。柏崎で最初に街頭テレビが置かれた場所といわれる。



9 立地蔵 (B-3)
江戸時代、立地蔵・ねまり地蔵はともに北国街道の真中に鎮座し、足元は飛砂に埋もれていた。その様子から当時、背の低い現・立地蔵は「ねまり(根うまり)地蔵」、背の高い現・ねまり地蔵は「立地蔵」と呼ばれていた。「ねまる」は座るの意だが、後の発掘で両石仏の足元を確認したところ、呼称が逆であることが判明した。そこで明治期、日光・月光菩薩を備えた薬師三尊立像のほうを立地蔵に、延命地蔵坐像のほうをねまり地蔵に改めた。なお、明治11年(1878年)の明治天皇北陸巡幸により遷座し、現在に至る。



10 ねまり地蔵 (B-4)
江戸時代、立地蔵・ねまり地蔵はともに北国街道の真中に鎮座し、足元は飛砂に埋もれていた。その様子から当時、背の低い現・立地蔵は「ねまり(根うまり)地蔵」、背の高い現・ねまり地蔵は「立地蔵」と呼ばれていた。「ねまる」は座るの意だが、後の発掘で両石仏の足元を確認したところ、呼称が逆であることが判明した。そこで明治期、日光・月光菩薩を備えた薬師三尊立像のほうを立地蔵に、延命地蔵坐像のほうをねまり地蔵に改めた。なお、明治11年(1878年)の明治天皇北陸巡幸により遷座し、現在に至る。

お買い物(お土産・お菓子・お酒・肉・魚加工品)

- 新野屋** (D-4) あらのや 納代焼、くる羊かん
- 猪爪酒店** (D-4) いのつめさてん 地酒 銀の翼、姫の井かめぐち酒
- イトーヨーカードー丸大柏崎店** (D-4) いとーよーカードーまるだいちかしわざき 地下1Fに名産品売り場があります
- 最上屋** (D-3) もがみや 越の荒海、かしわざき鯛サブレ
- 越後みそ西本町店** (D-3) えちごみそにしにしばんちようてん 野菜みそ漬、味噌ドーナツ
- 神林精肉店** (C-3) かんぱやしせいにくてん メンチカツ、豚肉の角煮
- 肉のいとう** (C-3) にくのいとう 肉のメンチ、ギョーザメンチ
- 丸小鮮魚店** (B-3) まるこせんぎょてん 鯛の親子漬、自家製惣菜
- ノマタ酒店** (B-3) のまたさてん 新潟県産酒、果実酒(梅酒など)
- 田塚屋** (B-3) たづかや 鯛の子印 魚卵の塩辛、鯛の親子漬
- 越の誉 酒彩館** (C-4) こしのほまれしさいかん 越の誉 全種類販売。入館料、蔵見学、試飲は無料 ※蔵見学は要予約(☎0257-23-3831)
- カフェ・喫茶店・甘味処**
 - 喫茶ポプラ** (D-5) きっさぽぷら コーヒー、モーニングセット
 - TEA ENSAMBLE** (D-4) ティーアンサンブル 紅茶、手作りオーガニックランチ
 - 甘味処 館庵** (D-3) かんみどころ あんあん あんこ屋さん直営のスイーツ
 - 珈琲創房 自由人** (D-3) こーひーそうぼうしじゆうじん 自由人ブレンド、バリ・アラビカ神山

お食事

- レストラン 悠風** (D-5) れすとらん ゆうふう お造り定食、海老フライ定食
- レストラン 日本海** (E-5) れすとらん にっぽんかい 三味一鍋 柏崎鯛茶漬
- 食事処 おおはし** (D-5) しよじどころ おおはし 刺身定食、松定食
- そばよし** (D-4) そばよし チャーシューメン、焼きそば
- 田辺食堂** (D-4) たなべしゆくどう 洋風カツ丼、スタミナカツラーメン
- 盛来軒** (D-3) せいらいけん 平打ち麺の中華そば、マーボーメン
- 食事処 どん家** (D-3) しよじどころ どんや 日替り弁当(昼限定)、ヒレカツ重
- 洋食のフタバ** (C-2) ようしょくのふたば 洋風カツ丼、ランチ類
- いづみみや食堂** (C-3) いづみみやしゆくどう ラーメン半カツ丼、ラーメン半カレー

ビューポイント

- 1 ブルボン本社 13階展望室** | 海・米山 ぶるぼんほんしや じゅうごうかいてんぼうしつ (D-5) 市内で最も高いビルの最上階からまちなみを見ることが出来る。見学申込みはインターネット予約限定。「ブルボン展望フロア見学受付」で検索。
- 2 陸橋からの眺め** | 砂丘の上からみる りっしょうからのながめ まちなか (B-3) 平成の切り通しに架かる陸橋。海が見える絶好のビューポイント！
- 3 シーユース電音** | 宿泊施設 (B-1) しーゆーすらいおん ロビーから見えるのは一面の日本海。日帰り入浴(水道水沸かし湯)あり。



15 柏崎勝長邸跡(香積寺内) (B-4)
かしわざきしょうちやうてん かしわざきしょうちやうてん
柏崎最初の長と伝えられる柏崎勝長の邸宅は、「柏の大樹」の北東にあり、没後遺言により菩提寺の香積寺に寄進された。勝長公は室町時代の曲師「柏崎」に登場する「柏崎殿」ではないかとされている。



16 島薬師(法禅寺内) (B-4)
しまやくし しまやくし
薬師信仰で名高い米山は「山薬師」と呼ばれ、作神(虫よけの神)として信仰を集め、それに比して島町の薬師如来は「島薬師」と呼ばれた。病氣治癒を祈り多くの信者たちが参拝に訪れた。



17 不求庵跡 (C-4)
ふぐあんあと ぶぐあんあと
良寛の最晩年の愛弟子で、幕末女流三大歌人「貞心尼」の終生のすみかとなった小さな庵の跡。



18 水道橋公園 (B-4)
みずはしこうえん しみずはしこうえん
昭和53年(1978年)の豪雨で鶴川が氾濫し、大水害となった。そこで162棟を移転し、川を直線化する河川改修が行われ、旧河川の上に新しく公園が整備された。公園の名は、昭和12年(1937年)から昭和57年(1982年)まで旧河川に架かっていた水道専用橋に由来する。



19 旧日本石油 柏崎製油所跡(大久保) (B-5)
きやうにほんせいしゆかしわざきせいじゆしよあと(おおくぼ)
日本石油会社は西山町で創業し、北越鉄建設・開業された。大正10年(1921年)当大久保に本社と製油所を移す。大正3年(1914年)に本社を東京に、大正10年(1921年)に製油所を東京に移した。跡地の一部は国際石油開発帝石(株)の事業所として今に至る。



20 旧日本石油 柏崎製油所跡(柏崎駅前) (F-5)
きやうにほんせいしゆかしわざきせいじゆしよあと(かしわざきえきまへ)
明治33年(1900年)宝田石油(株)により建設・開業された。大正10年(1921年)当時、国内大手の石油会社であった宝田石油(株)と日本石油(株)が合併し、日本石油(株)柏崎製油所として操業。昭和42年(1967年)に日石加工(株)が継承。平成13年(2001年)に閉鎖される。



21 柏崎駅 (D-5)
かしわざきえき
北越鉄道の駅として明治30年(1897年)開設。明治40年(1907年)日本国有鉄道(国鉄)へ。今は、東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)の駅。
柏崎観光協会観光案内所 もここにある。